

J A 御中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A全農ふくれん 担い手支援課)
(公印省略)

営農情報 15

暖冬に伴う麦類の栽培管理技術対策(2)

今年の麦は、11月下旬～2月上旬が高温（平年差：+1.5℃）に経過したため、生育は旺盛、かつ10日程度早く、一部の早播きでは茎立ちしている。また、全般的に降水量は少なく経過したため（平年比：87%）、湿害の発生は少ない。

向こう1か月の季節予報（福岡管区气象台発表：2月16日～3月15日）では、気温が高く、曇りや雨の日が多いと予想され、麦の生育、収量への影響が心配される。そこで、麦の収量安定のため、下記のような技術対策を実施する。

<作況試験（農林試 農産部）における予想茎立期>

播種時期	品種名	予想茎立期	平年値
11月20日	チクゴイズミ	2月3半旬	2月6半旬
	ちくしW2号	2月3半旬	2月6半旬
11月26日	ほうしゅん	2月5半旬	3月1半旬

技術対策

(1) 排水対策

降雨時の表面排水が速やかに行われるよう排水溝の溝さらえを行い、排水口を整備する。ほ場が乾燥した時点で、土入れを兼ねて作溝し、排水対策を徹底する。

(2) 土入れ・踏圧

土壌が乾燥した時点で速やかに土入れ・踏圧を実施する。

踏圧は、節間伸長開始期（踏圧の晩限：草丈20～25cm程度）までに実施する。節間伸長開始期は、播種期や地域により差が大きいので、現地の状況をみて判断する。

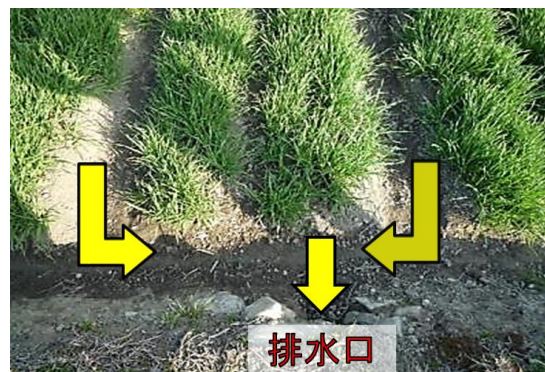
土入れは、倒伏防止や雑草防除の効果が高いため、3月上旬までに2～3回行う。

(3) 雑草防除

今後、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類などの広葉雑草の発生が予想される。また、麦の生育量が多く、除草剤が雑草の茎葉へ十分に処理できないことも考えられるため、雑草の草種や発生状況を観察し、茎葉処理除草剤を早めに処理する。なお、除草剤は普通作雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥（穂肥）

2回目の追肥（穂肥）は、食料用大麦・裸麦では2月中下旬、小麦では2月下旬～3月上旬に基準量を施用する。ただし、葉色が低下した場合は、2回目の追肥時期を早める。



溝を排水口につなぎ、地表水を排水

以上